

公開講座

日本酒の 輸出拡大策について 考える

講師

加藤 孝治 日本大学大学院
総合社会情報研究科 教授

講演内容

日本の農林水産物・食品輸出額は2018年に9000億円を突破し、2019年に1兆円に届く勢いである。そこには、日本食の多様な食材・調理法や季節性などの独特な食文化に育まれた歴史や伝統が、海外市場に受け入れられてきたという背景がある。特に、アジア市場に対しては、ハラル対応など現地市場の食文化に合わせた調整も行われてきた。しかしながら、海外の国々に比べると、まだまだ、経済規模に対する輸出額は少なく、商品別には拡大機会を十分に活かしていない商品も多い。今回は、日本酒を題材に取り上げ、現在、業界が直面している問題を整理し、海外の市場拡大の取り組みとの違いを明確にしつつ、今後の輸出拡大の可能性について考えてみたい。

講師プロフィール

かとう こうじ

日本大学大学院総合社会情報研究科 教授。博士(総合社会文化)。専門は、経営戦略、経営組織、流通論、ファミリービジネス研究。1988年に大学を卒業とともに、日本興業銀行(現みずほフィナンシャルグループ)に入行し、本店での大企業向け営業、産業調査業務などを経験。在職中に日本大学大学院総合社会情報研究科博士後期課程修了。2015年目白大学経営学部教授、2019年日本大学大学院総合社会情報研究科教授となる。主な著書に、2019年『これからの銀行論』(共著)、2016年『日本のファミリービジネス』(共著)、2015年『Next Marketを見据えた食品企業のグローバル戦略』(共著)、2015年『よこそ小売業の世界に—先人に学ぶ商いのこころ—』(共著)などがある。

▶メールアドレス:kato.koji115@nihon-u.ac.jp

2019

10/26^土

13:30▶15:00

(開場:13時00分)

日本大学通信教育部
1号館

※入場無料・予約不要

主催



日本大学大学院
総合社会情報研究科



会場
アクセス

日本大学通信教育部1号館：東京都千代田区九段南4-8-28

●JR・地下鉄：市ヶ谷駅より徒歩3分

問合せ：TEL 03-5275-8890 (通信教育部研究事務課)



※参加者多数の場合は、千代田区に在住の方が優先になります。